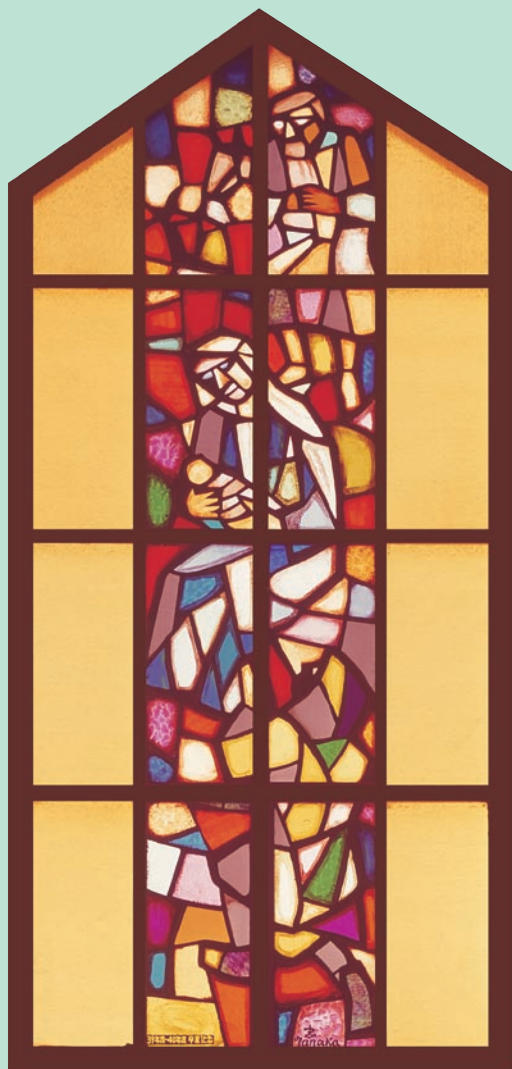


安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない。だから、人の子（イエス・キリスト）は安息日の主でもある。

〔新約聖書 「マルコによる福音書」 二章二七～二八節〕



「ぎよしこの夜」
米山記念礼拝堂

旧約聖書『十戒』第四戒（出エジプト記二章八～一一節）は、六日働いた後の七日目はどんな仕事もしてはならない、あなたも家族も奴隷も旅人も（家畜さえも）休みなさい、と命じます。

古今東西の人類の暦でも、一定日数を区切る例や特定行為の禁止日を設ける例は、見つかります。しかし、休息日で終わる七日の週、という教えは聖書に唯一、他に無比です。その究極の意味とは何なのでしょう。働くことをその本質とされる神が休まれ、そう命じて下さる故に、私たちも有り難く休ませて頂く、ということ以外にないようです。救いの究極は安息なのです。

そして、その日を宗教的に「聖別」し、恵みと励まし源たる神を礼拝することが続けられてきました。

ところで、冒頭の聖句は、神が人のために設けて下さった「安息」の本質を忘れ、その宗教的聖別の形だけを絶対化して振りかざす宗教的原理主義者を諷める主イエスの言葉です。それは本末転倒の律法主義なのです。

青山学院も以上の理解を揺るがせにすることなく、安息日を大切に守っていききたいものです。

（大学宗教主任―専門職大学院担当

西谷 幸介）